



2005年を迎えて —理事会の取り組みなど—

廃棄物学会会長 田中信壽

明けましておめでとうございます。

本年の 2005 年度は循環型社会推進基本計画の中間年度であり、廃棄物処理と資源循環に関して、一層の拍車がかかり、取り組みが活発化すると思われる。

さて、高松の年会が成功裏に終了した。準備時間が短く、地元会員が少ないという状況下でよく頑張ってもらったと感謝している。豊島という不適正処分の現場で現地の方に説明していただいたことが何よりも印象的であった。また、2つのシンポジウムもそれぞれ特色が出て感銘を受けた。各会場もほぼ満席の状態で活発な議論が行われた。年会開催に係わって頂いた皆様に厚く感謝申し上げる。廃棄物学会には他の学会に見られない特徴が幾つかある。その一つに、手作りの学会という気持ちが学会員に浸透していて、みんなが何らかの役割を果たそうとしてくれており、みんなが学会の集まり具合を心配してくれている。今後もこの気持ちを大事にしていきたい。なお、2005 年度の年会は、東北支部が実行委員会の中心となって、仙台市で 10 月 31 日（月）～11 月 2 日（水）に開催される。

第 8 期理事会では、これまでの 14 年間の学会活動を振り返り、更に将来の学会のあるべき姿を目指して、どのように変革して行くべきかを総括することを活動の中心に据えている。また、支部活動の活発化を目指している。そのため、全支部に理事がおり、支部担当理事も決めた。支部がその地域の廃棄物処理に十分力を発揮し、影響力を持って欲しいと願っている。

第 8 期理事会が発足して 6 ヶ月が経過した。理事会の議題を学会ホームページに掲載することになった。時々覗いてみていただきたい。いずれ、議論の内容も掲載したいと考えている。また、廃棄物学会も他学会と同様に賛助会員や公益会員数が減少している。どの組織でもそうだと思うが、会員確保は常に行っていく必要がある。今期は初めてのことであるが、理事が先頭になって会員拡大を行う。公益会員の候補団体を総務委員会でリストアップしていただいて、理事が分担してお願いに行くことになっている。続いて、賛助会員の拡大についても取り組む。会員の皆様も可能性のある団体・組織・会社があれば積極的にお知らせいただきたい。もちろん、正会員、学生会員の勧誘もよろしく願いたい。新しいパンフレットが作成され、

ホームページからも入会申込書を容易に取り出すことができる。さらに最近の話題として会員名簿の配布について議論している（名簿は 2 年に一度配布してきた）。どの組織も個人情報をごどのように管理するかが問われている。このことを明確にしてから、名簿を配布するかどうか決めたい。会員からの意見を期待している。

これら以外に、学会の将来方向（活動範囲の設定、名称の変更、活動内容の強化、廃棄物処理のあるべき姿等）を巡って、合宿形式の理事会を開催しようと考えている。また、学会の法人化については、届出法人の制度化もようやく法令化される見込みが出てきたので、それへの対応も図っていく。

さらに、学会らしい活動に出来るだけ早く取り組むために、廃棄物用語と廃棄物試験法について、国際的にも使えるものを作りたい。そのためには学会を代表する、場合によっては全日本で執筆者を集め、廃棄物学会全体で、特に研究部会での検討を経て権威あるものにすることを考えている。2005 年度はこの 2 つの課題を推進する委員会の開催費用の捻出を会長としてお願いしている。

この 2005 年が、廃棄物処理の飛躍的な展開が行われる年であることを祈っている。廃棄物学会もそれに積極的に寄与・関与していきたいと考えている。



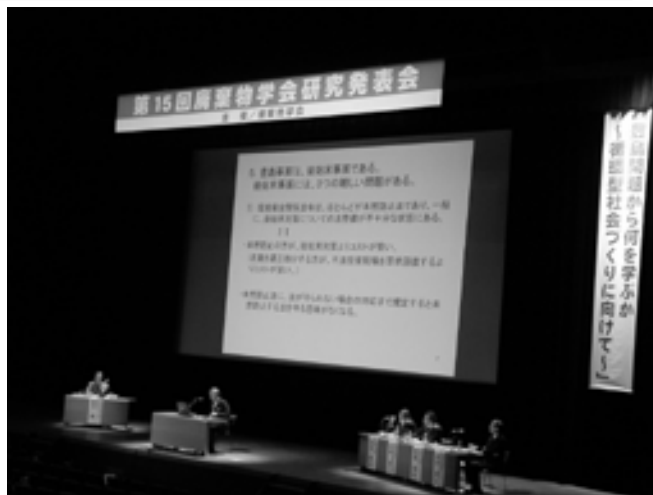
▲学会パンフレット、入会申込書等の掲載されているページ住所等の変更届も掲載されています。変更事項がありましたら、ご利用ください。（<http://www.jswme.gr.jp/nyukai/>）

= 研究発表会の様子 =

※第15回研究発表会講演論文集の残部を販売しております。
詳細は学会事務局へお問い合わせください。



▲特別シンポジウム



▲年会委員会企画シンポジウム



▲口頭発表会場



▲ポスター発表会場



▲国際シンポジウム



▲田中会長と最優秀ポスター賞受賞者のみなさん

第16回廃棄物学会研究発表会は、平成17年10月31日（月）～11月2日（水）に仙台市で開催されます。
たくさんの方々の参加をお願いします。

なお、発表論文の募集要領等は、廃棄物学会誌第16巻第2号（平成17年3月末発行予定）、学会ホームページに掲載予定です。たくさん論文をお待ちしています。

平成16年11月19日

施設見学会 参加報告

高松大会の一環として、豊島・直島見学会が実施された。豊島廃棄物等処理事業は、豊島に不法投棄された廃棄物を10年間かけて全て除去し、無害化（スラグ化）するプロジェクトである。見学会は、11月18日午前、19日午前、19日午後の3コースが設定され、各コースの定員は100名であった。各コースとも、25人ずつのグループに分かれ、(1) 廃棄物不法投棄現場、(2) 中間保管・梱包施設、(3) 高度排水処理施設、(4) こころの資料館（以上、豊島）、(5) 直島環境センター（焼却・溶融施設）、(6) 三菱マテリアル有価金属リサイクル施設（以上、直島）を見学し、施設概要等について説明を受けた。筆者が参加した19日午後のコースには、韓国廃棄物学会のメンバーも多数参加した。

廃棄物不法投棄現場は、白い遮水シートで覆われ、その上に土のうが載せられていた。また、海岸線沿いには、浸出水対策として、長さ 360m にわたって、最大深さ 18m の遮水壁が設けられている。投棄現場の一部区画では、廃棄物の掘り出し作業が進められ、中間保管・梱包施設で専用コンテナに充填されて、直島の処理施設に送られている。直島環境センターでは、豊島から運ばれた不法投棄廃棄物を焼却・溶融処理し、豊島スラグに加工している。

見学会当日は、小雨交じりのあいにくの天候であったが、各施設において活発な質問が出され、参加者の関心の高さが伺われた。香川県発注の公共事業では、豊島スラグの使用を義務づけている点など、興味深い話を聞くことも出来た。シートに覆われた不法投棄現場の規模と、目の前に広がる瀬戸内海の美しい風景とのギャップに圧倒されると共に、不法投棄の後始末の大変さを大いに考えさせられた見学会であった。

(広報委員会 松本礼史 記)



▲不法投棄現場と瀬戸内海

平成16年11月25日

「廃棄物マネジメントにおける戦略的政策形成・計画策定に関する国際シンポジウム」

11月25日幕張メッセにて、ウェステック2004と同時開催の第8回日本廃棄物会議の中で、廃棄物学会主催シンポジウムが開かれた。

今回は岡山大学 21 世紀 COE プログラムとの共催で「廃棄物マネジメントにおける戦略的政策形成・計画策定に関する国際シンポジウム」と題して行なわれた。副題は、「統合的廃棄物マネジメントのための意志決定支援ツールの研究動向と将来展望」とされ、国内外の廃棄物分野における計画ツールの開発状況と適用事例の紹介などの講演とパネルディスカッションが行なわれた。

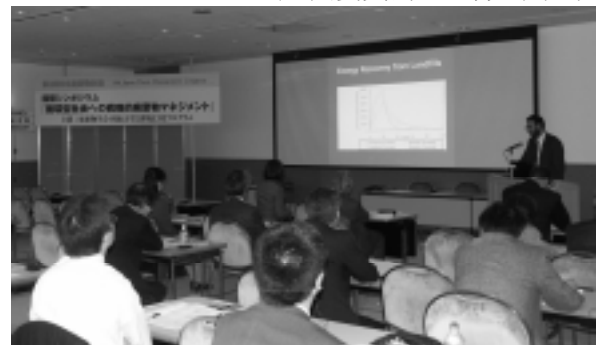
欧米では、LCA 評価体系を組み込んだ意志決定支援ツールの開発、自治体の政策決定プロセスへの導入が進んでいる。特に今回は先進の開発と実例への適用を進めている研究者を欧米から3名招いた。モートン・バラズ氏（米ノースカロライナ州立大学）、ホルスト・フェーレンバッハ氏（独ハイデルベルグ IFEU 研究所）、サイモン・オーモニア氏（英 ERM 社）である。また、岡山大学における計画ツールの開発概要の紹介とパネルディスカッションのコーディネータを COE プログラム拠点リーダーの田中勝氏（岡山大学）にお願いした。

環境適合性と経済性を客観的に評価することが要求

される廃棄物政策において、講演で紹介されたツールは政策決定者に対する強力な支援システムになりえるものである。そのためにも、ベースとなる LCA 評価のためのバックデータをコストと時間を掛けて蓄積すること、静脈系の LCA (Waste Life Cycle Assessment) を正しく行なうことが重要である。こうした認識は各国に共通したものであった。

会場に集まった約70名の聴講者は、講演やパネラーの討議に同時通訳を介して熱心に聞き入っており、シンポジウムは成功裏に終了した。

(企画委員会 三村正文 記)



▲講演の様子

見学会、シンポジウム開催報告

北海道支部では、10月から11月にかけて以下の2つのイベントを開催した。

1. 見学会

平成16年10月15日、生ごみメタン発酵施設を見学した。訪問したのは中空知衛生施設組合（滝川市）・砂川地区保健衛生組合（砂川市）の2か所である。それぞれの施設の維持管理担当者から施設の特徴や処理の概要、特にメタン発生量や発電能力等について詳しい説明を受けた。参加者からは施設の電力収支や買電量などコストパフォーマンスに関する質疑が多数出された。会員21人を含めた30人が参加した。

2. シンポジウム

平成16年11月6日、北海道大学クラーク会館において「北海道が目指す循環型社会とは―廃棄物系バイオマスの有効利用を考える―」と題するシンポジウムを開催した。小笠原紘一支部長（北海道）の挨拶の後、古市徹氏（北海道大学）による基調講演「循環型共生社会を目指した道内廃棄物系バイオマスの展望」が行われた。さらに、田中正巳氏（北海道）から北海道における廃棄物の現状について、小田真人氏（滝川市）から生ごみのバイオガス化について、原田正氏（ニセコ町）から家畜ふん尿・生ごみ等のコンポスト化につ

いて、春日隆司氏（(財)下川町ふるさと開発振興公社）から木質系バイオマスのエネルギー利用についての発表が行われた。続いて、発表者および神山桂一氏（北海道大学名誉教授）、藤倉まなみ氏（国土交通省）も加わったパネルディスカッションが、谷川昇幹事（北海道大学）の司会で行われた。150名を越える参加者から多くの質問、意見が述べられ、大変有意義なシンポジウムであった。終了後の懇親会においても、北海道における廃棄物系バイオマスの有効利用のあり方が熱く語られ、実り多い支部行事となった。

（北海道支部 大林純一、谷川 昇 記）



▲シンポジウムの様子

「廃棄物処理技術」基礎講習会開催報告

東海・北陸支部では、11月1日～2日に廃棄物処理に関する分野横断的な基礎知識と基礎技術の修得を目的とした「廃棄物処理技術」基礎講習会をJR名古屋駅に近い花車ビル北館で開催した。初日は、廃棄物処理の法体系に関する講義、化学物質の環境分析や有機系有害廃棄物の無害化処理法、廃プラスチックの有効利用技術、バイオ系廃棄物のコンポスト化・ガス化利用に関する講義が行われた。2日目は、資源循環ネットワークの設計とライフサイクルアセスメントに関する講義の後、酒井伸一氏（国立環境研究所）による「環境・エネルギー・資源と循環型社会」と題する基調講演があった。午後からは、金属・無機系廃棄物の再資源化処理、焼却の考え方と焼却技術、最終処分場の構造と管理に関する講義が行われた。いずれの講義も廃棄物処理分野の第一線で活躍中の講師陣によって行われた。企業・自治体の研究機関や大学などで廃棄物処理の実務・開発・研究に携わる技術者・研究者・大学院生ら36名が熱心に聴講し、活発な質疑応答があった。

講義終了後には、伊藤支部長から「講習修了証」が参加者のひとり一人に手渡された。参加者へのアンケートでは、「支部による認定は励みになる。廃棄物をキーワードとする広い範囲の知識が得られ有意義であっ

た。今後も新人教育のために、このような基礎講習会を毎年開催してほしい」などの感想や要望が出された。東海・北陸支部では、今後もこの講習会シリーズをさらに充実した内容にブラッシュアップし、特に企業の若い技術者の切実なニーズに応えうる基礎講習会として開催していく方針である。

（東海北陸支部 伊藤秀章 記）



▲熱心に聴講する講習生

【お知らせ】

廃棄物学会東北支部、廃棄物学会企画委員会主催 容器包装リサイクル法は 地域活性化の糧となるか？

開催日時：平成17年2月22日（火）13:30-16:40
開催場所：仙台メディアテーク 7Fシアターホール
（宮城県仙台市）
参加費：無料
定員：180名
申込方法：当日、会場に直接お越しください。
問合せ先：廃棄物学会事務局
TEL：03-3769-5099 FAX：03-3769-1492
廃棄物学会東北支部事務局 山田
TEL&FAX：022-217-5875、7211

廃棄物学会共催、(財)廃棄物研究財団主催 平成16年度廃棄物研究財団年次報告会

開催日時：平成17年2月1日（火）10:00-16:10
開催場所：国際ファッションセンタービル10F
（東京都墨田区）
参加費：無料
（但し資料代は、財団の会員；無料、非会員；2,000円）
定員：150名（定員になり次第締切）
申込方法：平成17年1月14日までに下記HPの申込書を利用し申込みください。
問合せ先：(財)廃棄物研究財団 北岡、柴崎
TEL：03-5638-7161 FAX：03-5638-7164
<http://www.jwrf.or.jp/>

廃棄物学会協賛、(財)有機質資源再生センター主催 講演・見学会

開催日時：平成17年2月15日（火）13:30-17:30
開催場所：森永乳業(株)東京多摩工場（東京都東大和市）
参加費：5,000円
定員：50名（定員になり次第締切）
申込方法：平成17年2月10日までに下記へ連絡
問合せ先：(財)有機質資源再生センター
TEL&FAX：03-3204-1263
E-Mail：oror@or2.or.jp

＝ 事務局年末年始休暇 ＝

平成16年12月29日(水)～平成17年1月4日(火)

会 員 状 況	
	H16.11.30 現在 () 内は、H16.4.1 以降の増減
正 会 員	3,588 (59)
学生会員	351 (80)
外国人会員 (DM)	24 (1)
登録団体市民会員	3 (0)
公益会員	111 (-1)
賛助会員	181 (-3)
計	4,258 (136)

注) 外国人会員(DM)は、廃棄物学会外国人等会員規程第4条に定める会員を示す。

廃棄物学会ニュース No.84 平成17年1月1日発行
廃棄物学会 〒108-0014 東京都港区芝5-1-9 豊前屋ビル5F
Tel.03-3769-5099 Fax.03-3769-1492



<http://www.jswme.gr.jp>
印刷媒体は古紙配合率100%再生紙を使用しています

JSWME Newsletter No.51 (January) 発行のお知らせ

英文ニューズレター51号は1月1日発行予定です。
※JSWME NEWSLETTER は41号より電子配信のみとなっています。
最新号、バックナンバーは学会ホームページ
(<http://www.jswme.gr.jp>) から入手できます。
主な内容
会長新年挨拶：田中信壽会長
廃棄物分野のODA：太平洋諸島のごみ処理(JICA 専門家報告)
国際セッション報告：バイオマスに関する日韓シンポジウム
国際ポスターセッション
学会活動紹介：APLAS Kitakyushu 2004

The Contents of No.51

- 1 New Year Greeting from JSWME President, Prof N. Tanaka
- 2 Japan's ODA on SWM: - A Small Island, a Big Challenge - (Report from a JICA Expert)
- 3 International Session in the 15th JSWME Annual Conference: - Japan-Korea Symposium on Biomass - International Poster Session
- 4 Activities of JSWME: APLAS Kitakyushu 2004
Cartoon by High Moon:
"Advent of home collection service business?"

☆☆事務局だより☆☆

昨年は台風や集中豪雨による被害が相次ぎ、また10月には新潟県中越地震が発生しました。被災者の方々にお見舞い申し上げるとともに、よき年となることを祈っております。

米国ジョージア州シーアイランドで開催された昨年6月のG8サミットで、“3R”を通じてグローバルな視点から循環型社会の構築を目指す「3Rイニシアティブ」が小泉首相より提案され、各国首脳間で新たなイニシアティブとして合意がなされました。これを受けて、環境省主催による3Rイニシアティブ閣僚会合が、本年4月28日から東京で開催されます。

廃棄物の発生抑制、減量化、再利用を目指して行政、企業、消費者が一体となった循環型社会の構築が強く求められておりますが、この会議を通じて、国際的な取組みが更に進展することを願っております。

その内容として、「3Rに適した科学技術の推進」、「能力構築・啓発・人材育成、再生利用事業の分野での途上国との協力」などが上げられております。これらは、廃棄物学会の創立以来、多くの会員が一生懸命取り組んできた課題の一つで、学会の果たすべき役割には大きなものがあります。技術協力の円滑な実施に向けて、会員間の連携を期待したいと思います。

(松村治夫 記)



次号 (学会ニュース No.85) は3月25日発行予定です。